

オンラインでの取組

小学部教諭 五反田明日見, 久野智宏

I はじめに

今年度は、新型コロナウイルス感染症により、本校の教育の在り方が大きく見直された1年であった。昨年度末の3月から5月までの3か月間、緊急事態宣言により一斉休業となり、幼児児童が登校し、教師や友達と「対面で」学習するという当たり前の教育ができなくなった。6月以降、教育活動が再開されてからも、年間を通じて、運動会やのびのびまつり（外部団体の協賛を得て開催する学校行事）などの行事は中止となり、幼児児童や教師らが集合し、密になりかねない集会等も行えない状況となった。しかし、新型コロナウイルスの影響により、直接、見て、聞いて、関わって学ぶことが難しい状況の中でも、これまでのように幼児児童の学習の機会を保障するために、オンラインを活用した新たな取組を試み、実践を積み重ねてきた。今年度の取組を通して、オンラインでの指導を行う際に、どのようなことがポイントとして挙げられるのか、更に、今後、オンラインでの学習を発展していくためには、どのような点が大切であるかについて、明らかになったことを述べる。

II 一斉休業中の指導について

1 一斉休業中の指導を行うにあたって

教育現場において、3月～4月は、卒業・修了、入学・進級し、新しい生活や環境（教室や担任）が始まる時期である。この期間は、子供たちがこうした変化や新しい生活・環境について知り、納得して受け入れたり、新たな担任等との関係作りをしたりする大切な時期でもある。今年度も4月に、学校は、新年度の体制に移行したが、一斉休業が続く中で、担任と幼児児童、担任と保護者が直接、顔を合わせてコミュニケーションをとることが難しい状況が続いた。

そのような状況の中、保護者からは、長期化する一斉休業により、いつ学校が始まるのかが分からない、先の見えない不安があることや、外出自粛などにより、家庭で過ごす時間が多くなり、保護者の負担や家庭での様々な子育てに関する悩み事等が増えてきているという声が上げられた。また、目に見えないウイルスによって、「外出ができない」ことや「家庭で過ごさなければならない」こと、「学校が休み」であることなどの現状を子供にどのように説明すればよいか、そして、どのように家庭で過ごせばよいかなどの不安の声もあった。

私たち教師も、新年度の教育が開始されたものの、幼児児童との直接的な関わりを通じた実態把握や教育ができないことへの不安と焦りを感じた。また、家庭で過ごす幼児児童に対して、どのようなアプローチができるのか、保護者との関係作りをどのように進めていくのかという点において、模索している段階であった。

2 学校全体の取組

これまで、誰もが経験したことのない事態の中、まず、教職員全体で「幼児児童が、安心して家族と一緒に、家庭で過ごすためには、学校は何ができるのか」、「長期化する一斉休業の中で、幼児児童の学習の機会をどのように確保するのか」、「保護者とどのように協同関係を築いていくのか」という点を踏まえ、休業期間中の学校全体の取組の方針について、共通理解を図った（図1）。

幼児児童	幼児児童が、様々な手段通して、担任と関係作りをするとともに、現状を理解したり、学校生活が始まることに期待感をもったりすることができるようにする。
保護者	保護者が、現在の生活の中で感じている子育ての悩みや、感染症等への不安、思いなどについて担任に話したり、一緒に対応策を考えたりすることを通して、前向きに生活を営むことができるようにする。
教職員	教職員自身の健康に十分に配慮しながら、全教職員が協力して幼児児童の学びを保障し、幼児児童や保護者の心のケアを行うための取組を検討し、実施する。

図1 学校全体の取組の方針